

ISSEIKAI

45th ANNIVERSARY



社会福祉法人一誠会
45周年記念誌

Green Days124th



ISSEIKAI

45th ANNIVERSARY



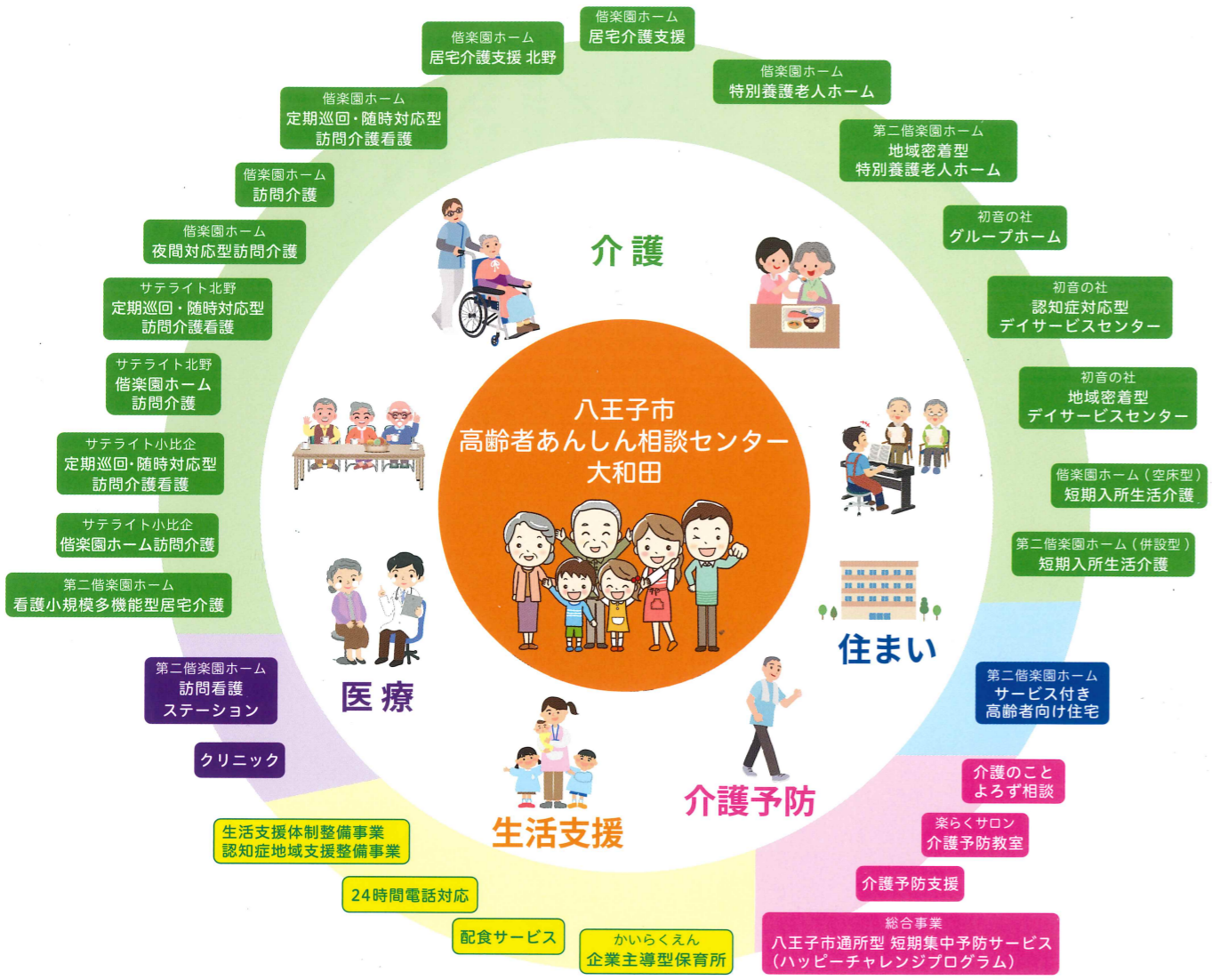
社会福祉法人一誠会
<https://www.kairakuenhome.or.jp/>



一誠会45周年記念誌

CONTENTS

◆ 45周年記念誌発刊に寄せて.....2p～7p	◆ 施設紹介.....18p
◆ 一誠会45年の歩み.....8p	◆ 地域活動.....28p
◆ 一誠会理事長 × 八王子市長の対談 10p	◆ 施設概要.....30p
◆ 一五戸共栄会代表理事挨拶.....14p	◆ 編集後記.....31p
◆ トップリレー.....16p	



一誠会では、地域の高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう「介護」「医療」「予防」という専門的なサービスと、その前提の「住まい」と「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、連携しながら在宅の生活を支える地域包括ケアシステムの実現に努めています。

社会福祉法人一誠会設立45周年を迎えて

社会福祉法人一誠会 理事長 鈴木康之

GREETING



社会福祉法人一誠会設立45周年を迎えて一言挨拶申し上げます。

この記念すべき日を迎えることが出来たのもひとえに、設立以来、ご支援、ご協力をいただきました地域の皆さまをはじめ、努力を積み重ねた先人の方々のおかげと心より感謝申し上げます。

一誠会の歴史は、昭和54年に戸井福祉会の新谷義克理事長（現一誠会参与）が一誠会を設立し、昭和55年に八王子市で8番目の特別養護老人ホームとして倍楽園ホームを宮下町に開設したことが始まりです。

当時はまだ現在のような介護保険制度もなく、周辺住民の理解も薄く

設立には難渋したとお聞きしていますが、私自身は平成17年に一誠会の理事長に就任し、早くも19年が経過しました。

さて、団塊の世代が75歳迎える2025年も間近に迫っており、介護費用や医療費の増大、地域の担い手不足などの問題が山積する中、これらを改善していくことが喫緊の課題です。

一誠会では平成23年に初音の社、平成30年に第二倍楽園ホームを開設し、令和2年には地域包括支援センター大和田を八王子市から受託するなど、一誠会の地域包括ケアシステムを構築いたしました。これらの施設を利用することで地域の方々安心して住み慣れた地域で生活出来るように、努力してまいります。

また、令和5年4月には複数の社会福祉法人が連携し、多くの方々に細かいサービスが出来るようにグループ法人である岐阜県中津川市の

社会福祉法人五常会、北海道函館市の戸井福祉会と連携し、都内初の社会福祉連携推進法人一五戸共栄会を設立しました。そして令和6年4月からは八王子市高齢者在宅サービスセンター中野の運営を開始することになりました。

安心・安全・愛情を理念とし、ご利用者お一人おひとりのニーズに合ったテラーメイドの介護を實踐し、皆さまにこの施設を選んで良かったと言われる施設を目指して、これからも地域の良きパートナーとして一層、信頼していただける、そして常に前進し未来を切り拓く社会福祉法人として取り組んでまいりますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

◆ すぎやすゆき

1956年、東京都葛飾区出身。86年帝京大学医学部医学科卒業。87年、同大学第一内科入局。94年、新谷医院副院長、98年から社会福祉法人一誠会倍楽園ホーム配置医。2005年、社会福祉法人一誠会理事長に就任、現在に至る。

理念

私たちは、次の法人の理念と品質方針を、偕楽園ホームおよび初音の杜ならびに第二偕楽園ホーム、高齢者あんしん相談センター大和田の旗印、そして業務の道しるべとして、遵守します。

安心
安全
愛情

品質方針

- 一、私たちは、関係法令・基準を遵守し、コンプライアンスを尊重した運営を行います。
- 一、私たちは、ご利用者が個人の意思と可能性が尊重され、自立したその人らしい生活を、地域社会で営むことができるよう、援助します。
- 一、私たちは、事業の高い公共性と倫理性を自覚し、開かれた施設運営と経営の透明性に努めます。
- 一、私たちは、地域社会への貢献と共生に努めます。
- 一、私たちは、広い視野とプロフェッショナルとしての専門性を高めるため、研鑽と努力を惜しまず、常に介護サービスのあるべき姿を提示します。
- 一、私たちは、一誠会に寄せられる貴重なご意見、ご批判などを真摯に受け止め、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、常に成長し変化し続けながら、一貫した高品質のサービスを提供する一誠会ブランドを構築します。



社会福祉法人一誠会
創設者・参与
新谷義克

創設者挨拶 45周年記念誌 発刊に寄せて

社会福祉法人一誠会創立45周年を現況のように発展した状態を迎えられたことは誠に御同慶の至りです。

創設以来偕楽園ホームを支えていただいた歴代の施設長はじめ、多くの職員の皆さまに心より感謝いたします。

現在まで45年間、いろいろ厳しいときもありましたが、各施設長はじめ多くの職員の協力で難関を乗り越えた結果が現在の発展した一誠会の姿です。

現在までの施設長の中でも特に

直近の佐道、水野両施設長はそれぞれ平成23年に偕楽園ホームに隣接する初音の杜、平成30年には加住町に第二偕楽園ホームを造りました。現在それぞれ一誠会の貴重な財産として機能しています。創設者として御兩人には心より感謝いたします。

また、私が創設した岐阜の社会福祉法人五常会と函館の戸井福祉会と一誠会の三つの法人で作った東京都初の社会福祉連携法人一五戸共栄会も今後の活躍が大いに期待されます。

さらに、今度、新しく八王子市高齢者在宅サービスセンター中野および併設する高齢者世帯付住宅の生活援助業務を八王子市から受託できたことは大変名誉なこと、職員の皆さんの一層の努力を期待しています。

一般的に介護の仕事に入ってくる方は、人間としてよい資質をもっています。他人(高齢者)の喜びを自分の喜びにできる心をもっています。

仏教でいう「慈悲・布施」キリ

スト教の「愛」孔子の説く「仁」の精神です。現実生きていく人間としてまず自分の利益を考えるのは当たり前で(自利)合せて利他の心をもつ「自分を利して他人をも利する」という仏教の基本理念です。

介護施設は設備が整っているのは当然ですが、本当の善し悪しは箱ではなくその施設の職員の質によります。自利・他利の心を合せもち、かつ専門職として熟練した技術を身に着けている職員がどのくらいいるかで施設の評価が決まります。

職員の皆さんは以上のように精神と技術面を磨くことでどんな世界で生活しても幸せに通ずるようになると思いますので心していただきたいと思います。

◆しんやよしみ

1932年、北海道函館市出身。56年、早稲田大学法学部卒業。60年、東邦大学医学部卒業。61年に東京警察病院外科入局。69年、東京都府中市に新谷医院を開院。80年、特別養護老人ホーム偕楽園ホームを八王子市に開設。新谷医院院長、戸井福祉会理事長、はこだて観光大使に就き、現在に至る。



◆ 八王子市市長
初宿和夫
しやけかずお

1964年、愛知県出身。1983年、海上自衛隊入隊。その後1988年に東京都に入庁。2023年東京都庁を退職し、2024年1月29日より第32代八王子市長。

この度、社会福祉法人一誠会が創立45周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。貴法人が、地域住民の皆さまの福祉にご尽力いただいておりますことに、敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。



一誠会鈴木理事長(左)と初宿八王子市市長(右)

貴法人におかれましては、昭和55年に開設された「偕楽園ホーム」を中心に、これまで地域に根差した様々な介護サービスを提供されております。また、令和6年4月には「八王子市高齢者在宅サービスセンター中野」の指定管理者として運営を開始することになっており、益々地域住民の皆さまにとって、なくてはならない存在になっていくことと存じます。

今後、2025年には「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者となり、介護サービス需要の急増が見込まれ、さらに、2045年には老年人口のピークを迎える中で、介護人材の確保や地域包括ケアシステムの構築といった喫緊の課題に向けて、さらなる取り組みが必要となります。

こうした中、市民の生命と財産を守り、安全安心な暮らしを実現するために、私は強い決意と信念をもって全力で取り組んでまいります。貴法人には、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴法人の益々のご発展と、皆さま方のさらなるご活躍を心から祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



◆ 衆議院議員
荻生田光一

はぎうだ こういち

1963年、東京都八王子市出身。八王子市議会議員、東京都議会議員を経て、2003年に衆議院議員当選。現在6期目。文部科学大臣、経済産業大臣、自由民主党政務調査会長を歴任。

この度は、社会福祉法人一誠会が創立45周年という輝かしい節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。長きに渡り地域の社会福祉事業を支えてこられました鈴木康之理事長先生をはじめ、全ての職員の皆さまに改めて敬意と感謝を表します。

昭和55年に宮下町で偕楽園ホームの事業を開始されて以来、平成23年には初音の杜、平成30年には第二偕楽園ホームを開設され、平成を通して八王子市の地域介護に取り組み、



一誠会の行事にもお越しいただき、ご挨拶を頂戴しています

地域包括ケアシステムを担ってこられました。また、近隣町会との交流も図り、年明けには餅つき大会、夏には納涼夏まつりなど、地域と連携しながら様々な行事を通じて地域社会へ貢献と共生を深めていただいております。今やご利用者のみならず地域にとっても必要不可欠な存在です。私も国政の場から皆さまの活動の後押しができるようにしっかりと追い風を送ってまいります。

鈴木理事長先生におかれましては八王子の地域医療、介護医療を牽引する立場で一層の躍進を祈念するとともに、職員の皆さまには社会福祉法人一誠会の歴史と信頼に裏打ちされた現場力を誇りに、引き続き市民の健康を守ってくださいますようお願い申し上げます。お祝いの言葉といたします。



初宿新市長が搗いたお餅を皆で美味しく食べることができました



今年1月に開催した当法人のもちつき大会にお越しいただき、ご挨拶を頂戴しました



◆ 加住町 町会長
長田潤一

おさだじゅんいち

1948年、東京都八王子市加住町出身。2022年より現職。

この度は法人設立45周年とのこと、誠にめでとうございます。

加住町には5年前に第二偕楽園ホームさんが開設されて以来、ご利用者の皆さんや職員さんとは町会行事をきっかけに交流を図ってまいりました。

今後も『明るく元気な加住町にしよう!』をモットーに一緒に町を盛り上げていきたいと思います。



◆ 宮下町 町会長
長田秀次

おさだひでじ

1943年、東京都八王子市加住町出身。2019年、宮下町会理事。2023年より現職。

社会福祉法人一誠会設立45周年おめでとうございます。我々から見ると、一誠会さんはとても発信力の高い、外部に開かれた法人さんだと感じています。

今後も引き続き宮下町会と相互協力の下、地域の発展にご尽力を賜りますようお願いするとともに、益々のご発展を祈念しております。

HISTORY

一誠会 **45** 年の歩み
【Green Days】とともに振り返る

2024

(令和 6 年)

Green Days 123 号



2022

(令和 4 年)

Green Days 116 号



2022

(令和 4 年)

Green Days 113 号



2020

(令和 2 年)

Green Days 101号



1995

(平成 7 年)

『黎明』創刊号発刊

当初の題字はご利用者からの投稿によるものでした。



1979

(昭和 54 年)

一誠会設立

地域社会や家族形態の変化を見据え、地域社会に貢献できる事業として一誠会を設立しました。

2023

(令和 5 年)

Green Days 118 号



2022

(令和 4 年)

Green Days 114 号



2018

(平成 30 年)

『黎明』92号



1980

(昭和 55 年)

借楽園ホーム開設

特別養護老人ホーム借楽園ホームは、介護保険制度が始まる20年前から事業を開始しています。



「特別対談」 日々の暮らしから介護まで 幅広い取り組みで八王子を支える

社会福祉法人一誠会 理事長
鈴木康之

八王子市 市長
石森孝志

八王子を市政の面から支える石森孝志市長と鈴木康之理事長が、これからの八王子をどのように支えていくかについて対談を行った。
※肩書は対談を行った令和5年11月20日現在のものです。



石森市長と一誠会との出会いと
言うのはいつ頃からになるんで
しょうか？

石森市長（以下…石森） 元々私は市議会からスタートしましたが、地元が加住地区でしたので、隣接する宮下地区に在る一誠会さんには昔からお世話になっておりました。

鈴木理事長（以下…鈴木） 石森市長との出会いですが、市長が市議会議員から都議会議員になられた時に一誠会の監事になっていただいたのが最初のきっかけですかね。その後、理事になっていただき色々法人の運営などで相談に乗っていただいております。

一誠会の鈴木理事長とは40周年記念として5年前にも対談をされましたが、その後の5年間に
おいて石森市長、鈴木理事長の中で記憶に残る出来事などありましたでしょうか

石森 まず何といっても新型コロナウイルスによる感染症への対応でしょうか。

ています。

鈴木 ほんとに大変でしたね。未知のウイルスですから当初は何も対応が分からない中で過ごさざるを得ない状況でした。幸い自分自身が医師でもありますので、医師の立場からその時その時で出来る対応を行っていきました。

その後ワクチン接種が始まった際には八王子市が迅速な対応をしてくれたおかげで、早々にご利用者の方々にワクチン接種が出来たことはありがたかったですね。

一誠会ではコロナ禍の際にも家族との面会を中止しなかったとお聞きしましたが、この対応について意図するところは何だったんでしょうか

鈴木 これについては色々叩かれました（苦笑）。もちろん、時期によっては面会は中止してりましたが、それ以外の時はご家族との面会は行っていました。

私の考えとしては、入居されている高齢者の方々にとって、ご家族との面会の機会を奪うと言うのは一番

感染拡大が始まったのが令和2年の初めですが、八王子市では令和3年の4月に全国でも先駆けてワクチン接種をスタートさせました。その後第2波、第3波と続くわけですが、その都度政府や東京都、八王子市医師会と連携を図り、地域医療体制を整備していきました。

それと同時に医療・介護・教育関係者に対して感染対策の専門家によるWebセミナーを実施し、新型コロナウイルス感染症の知識の普及、啓発や情報共有を進めていきました。また、第3波からは八王子モデルと言われる感染者の転院受入促進事業である『八王子10 Daysルール』の策定と実施。そして第5波からは、自宅療養を余儀なくされていた方の、医療機関の受診や入院調整を迅速に行う『地域医療体制支援拠点』を設置するなど、八王子市独自の対応を実施しました。

このように迅速な感染症対策を行った結果、八王子市では自宅療養中に亡くなられると言う患者さんは一人もおられず、市民の皆さんの健康・生命を守ることが出来たと思っ

寂しいことですし、また、一種の隔離状態にすることで、認知症やフレイル（※1）が進んでしまうリスクが高くなります。そこで、医師として感染症のリスクより、認知症やフレイルの進行を予防することの方がご利用者にとって有益であるとの判断から、一定の条件を設けたうえで、ご家族との面会を行っておりました。

直近の5年間にける介護業界での動きについてですが、令和3年の介護報酬改定によって、介護事業所におけるBCP（業務継続計画）の策定が令和6年4月までに義務化されましたが、介護業界としてBCPへの取り組みについてお聞かせください

鈴木 一誠会は法人として以前からBCPについては作っていましたが、昨年度東京都で初となる社会福祉連携推進法人一五戸共栄会を設立しましたので、此方の社会福祉連携推進法人においてもBCPを新たに策定・作成を行いました。

一五戸共栄会に参画している社会

福祉法人は、八王子市の一誠会と、北海道函館市の戸井福祉会、そして岐阜県中津川市にある五常会と、拠点となる地域が分散されており、これにより万一の災害時における様々な事柄において、人や物の移動や確保と言ったことが出来るようになりました。

同じくBCPに関して行政としての取り組みは如何でしょうか

石森 すでに策定はしております。災害の種類によって対応が異なりますので、地震や風水害を対象とした『自然災害編』と、感染症を対象とした『新型インフルエンザ等編』の二つのBCPを策定・作成しております。

いずれのBCPにおきましても、市民の生命・健康を守る保健医療や介護業務の他、市民生活に必要な業務を事前に特定しておくとともに、業務の執行体制や対応手順などをあらかじめ定めております。また、図上訓練に関しても定期的に行っており、いつ如何なる場合においても、市民サービスへの影響を最小限に食い止めるための体制作りを進めております。

一誠会との思い出や、今後の一誠会に期待することなどをお聞かせください

石森 市議会時代から一誠会さんに色々とお話いただき、生まれてから亡くなるまでの様々な場面において、一誠会の事業が関わりを持ち、地域住民の皆さまのお役に立てるようにするという形を具現化したものとなっております。

また、今まで以上に高齢者の方々への支援として、サルコペニア(※2)やフレイル予防、そして臨床の実施と検証といったことを重点的に行っていく必要があると考えており、そうした考えに基づき、一誠会では『通所型サービスC(八王子市通所型短期集中予防サービス)』と言う介護予防サービスを第二階楽園ホーム内にてスタートさせました。

このサービスを社会福祉法人でやるのはなかなか珍しいのですが、八王子市にもご協力をいただきスタートさせることが出来ました。一誠会としましては、今後も行政と協力しながら地域住民の皆さまへの介護支援の充実を図っていくためにも『八王子市地域包括ケアシステム』をさらに充実させ、ご利用者の方々に喜んでいただける施設・法人にしていきたいと考えております。

最後になりますが、今後の抱負についてお聞かせください

石森 私は令和6年1月28日を以って市長の職を辞する訳ですが、引退表明をして間もな

世話になりました。私が八王子市長に就任した時には特別養護老人ホームやグループホームを宮下町で開設されておりましたが、非常に地域に根付いた施設だと感じておりました。(市長就任からの)12年間にも一誠会さんは様々な施設やサービスを展開されており、平成30年には加住町に『第二階楽園ホーム』が完成した訳ですが、そちらの施設の看板を私が書いたものですから特に記憶に残っていますね(笑)。そんな縁もあり、落成式にもお邪魔させていただきました。

『第二階楽園ホーム』ですが、地域密着型の特別養護老人ホーム、あるいは看護小規模多機能型居宅介護を中心として、まさに地域包括ケアシステムの拠点と言える施設であると思います。開設から5年が経過しましたが、地域住民の皆さまにとっても、なくてはならない存在になっていられるとお聞きしております。

その他にも令和2年に『高齢者あんしん相談センター大和田』の運営を八王子市より受託され、令和4年には北野町に『定期巡回・随時対応型訪問介護看護サテライト事業所』(サテライト北野)を開設されたりと、多くの地域で活躍の場を広げていると感じています。

一誠会さんにおかれましては、介護予防、重症化防止などの事業を展開されており、引き続き様々な事業に取り組んでいただいものですから実際に辞めた後に何をするか、まだ白紙の状態です(苦笑)。

ただ、いずれにしましても地域の何某かのことには関わっていききたいとは思っていますので、地域を盛り上げるようなことに関わっていき。そんな人生を送れたらいいなと思っています。

一誠会さんとは同じ地元地域でもありますが、地域の発展においてご協力をいただければと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

鈴木 少し早いです。石森市長におかれましては12年間の市長としての重責。本当にお疲れ様でした。

冒頭にも言いましたが、石森市長とは市議会議員時代からのお付き合いなんです。その後一誠会の理事を退かれたあとも、折に触れご相談に乗っていただいたり、ご助言を頂戴したりと、助けていただきました。

先程「今後は地域の発展に尽力していきたい」と仰いましたが、一誠会としても、この45年間で培ってきた地元の方々とのつながりをさらに深め、石森市長にご協力しつつ、地域の発展に寄与していける施設、法人であり続けたいと思います。

き、地域の皆さまの心強いパートナーとして活躍されることを期待しております。

石森市長のお言葉を受けて、鈴木理事長はどう感じられますか

鈴木 先ほど石森市長との出会いについて話をしましたが、法人としましては当時都議会議員であった石森議員に一誠会の理事の職を続けていただきたかったです。八王子の市長になられると言うことで、当法人の理事を退任されました。

その後は皆さんご存じのように、市政においてその手腕を12年間に渡り発揮された訳ですが、我が法人としても、かつて理事として在籍されていた石森市長に恥じない法人になろうと、職員が一丸となって頑張っていました。

そうした結果、平成22年当初には6事業を展開するにとどまっておりましたが、現在では22事業、27事業所を展開するに至っております。

また、令和2年に『地域包括支援センター』である『高齢者あんしん相談センター大和田』の運営を八王子市より受託したことで、私自身の夢もありました。一誠会による『八王子市地域包括ケアシステム』を形作ることが出来ました。



※1フレイルⅡ虚弱・老衰・脆弱
※2サルコペニアⅡ加齢による骨格筋量の低下



社会福祉連携推進法人
一五戸共栄会 代表理事

土屋大二郎

一五戸共栄会代表理事挨拶

一誠会設立45年 を迎えて

社会福祉法人一誠会が設立45周年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

また、創設以来幾多の困難や試練を乗り越え地域の高齢者福祉に貢献された歴代の理事長、施設長はじめ職員の皆さまのご努力に深く敬意を表する次第です。

さらに、鈴木理事長、水野常務理事の強力なご指導の下で、ISO9001の導入や社会福祉連携推進法

人の設立などの先駆的取り組み、第二保育園ホームを中心とした複合施設や地域包括支援センター開設などを通じて実に福祉業務基盤を構築されておられることは、貴法人の理事の一人として大変頼もしく誇りに思っております。

さて、令和4年4月施行の社会福祉連携推進法人制度に基づき一誠会、戸井福祉会と五常会のグループ3法人で、高齢者福祉を取り巻く環境変化を見据え、相互協力を一層深化すべく同年11月に一五戸共栄会を設立しました。運営にあたり、本部の設置や業務執行の多くを貴法人に依存しており大変恐縮に存じておりますが、グループの冗費分にして一五戸共栄会の中核法人として引き続きご先導ご支援いただきたくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴法人の益々の発展と皆さまのご活躍を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

地域福祉支援業務

地域福祉の推進に係る社員の取り組み支援（人口動態などを踏まえた地域住民の生活課題などのニーズ調査支援、ニーズを踏まえた取り組みの企画立案・地域福祉支援ノウハウの提供、取り組みの周知・広報などの支援など）

災害時支援業務

自然災害や感染症などの災害に対し、各社員が継続的に福祉サービスを実施可能とする相互支援（災害時支援ニーズの事前把握、被災社員に対する人材の応援派遣の調整、被災社員に対する応急的な物資提供の調整、ご利用者の他施設への移送支援の調整、避難訓練の共同実施やノウハウの提供など）

人材確保等業務

社員の社会福祉事業従事者の確保・育成のための支援（必要に応じ合同での採用募集、人事交流の調整、合同での研修の実施、外国人受け入れの相互協力など）

物資等供給業務

スケールメリットを生かした物資・システムなどの一括調達・提供業務（介護機器や衛生用品などの一括調達、ICTを活用したシステムの一括調達、人事・財務などの経営システム改善に向けたコンサルティングの一括発注など）

経営支援業務

社員の社会福祉事業経営に関する知識・ノウハウの共有・相互支援（国の社会福祉政策の展望・把握・分析を通じて経営ノウハウなどに関するコンサルティング、人事制度に関するコンサルティング、財務状況の分析・助言、社員の経営企画や特定事務処理の代行など、さらに社員それぞれが持つ優れた経営ノウハウの共有化など）



一五戸共栄会 web



一五戸共栄会 X (旧 Twitter)



令和4年11月4日に都庁にて、土屋代表理事が東京都福祉保健局指導監査部指導調整課長より社会福祉連携推進法人の認定書を受け取りました

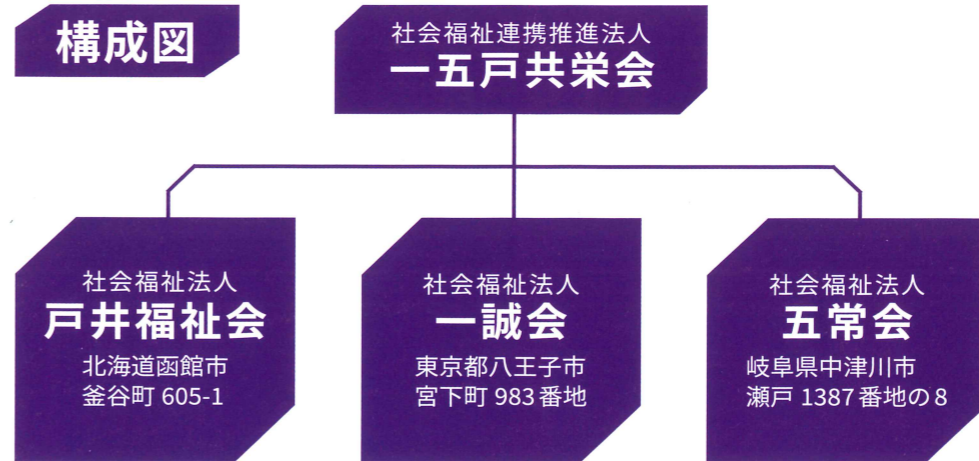


人材交流の一環で全関東八王子夢街道駅伝競走大会に合同チームで参加するなど、福利厚生事業として各法人間の職員の親睦を深めています



「災害緊急時等における相互支援協定」を令和2年に結んで以来、毎年3法人による広域災害を想定した総合防災訓練を実施しています

構成図



◆つちやだいじろう 1945年、東京都中野区出身。68年、東京大学文学部社会学科卒業。69年、三井銀行に入行。2015年に社会福祉法人五常会理事長に就任。社会福祉連携推進法人一五戸共栄会代表理事。中部大学名誉教授。

TOP RELAY

トップリレー

通常の GreenDays では、各事業所長がリレーしてご挨拶していますが、記念誌では全員集合しご挨拶申し上げます。



社会福祉法人一誠会
社会福祉連携推進法人一五戸共栄会
法人事務局長
平出肇

社会福祉連携推進法人一五戸共栄会は、一昨年の11月4日に東京都初の社会福祉連携推進法人の認可を受け、2年目となりました。

その母体と言える一誠会は本年45周年を迎え、連携する岐阜県の五常会、北海道函館の戸井福祉会と地域福祉支援・災害時支援・経営支援・人材確保・物資等供給と言う5つの業務を共同で行い、各社員（社会福祉連携推進法人を構成する法人）が地域の福祉の進展・推進に貢献できるように活動を推進しています。

令和5年度は4月から5月にかけて各法人を巡回し、経営分析ならびに市場分析を実施、10月には函館の戸井福祉会にて合同チームによる道南駅伝参加と合同防災訓練を実施、X(旧ツイッター)開設、11月と2月に社員向けWeb研修会の開催など、まだまだ微力ではございますが、社会福祉法人がその使命を全うするために活動を推進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



偕楽園ホーム
施設長
鷹野賢一

このたび、社会福祉法人一誠会創設45年を迎えたことは、ひとえに創設以来、地域ならびに先人の皆さま方の温かいご支援とご指導の賜物と、心より厚く感謝申し上げます。

一誠会の始まりの事業である偕楽園ホームは、この先も「職員が輝けるいい施設」と言われるように努めていきたいと思っています。

「いい施設」の定義は、人により異なると思いますが、ご利用者の要望に応えられるケアが実践できることだと思っています。

ご利用者の要望に応えるためには、気持ち聴く耳を持つことや実行力を持つことなど、粘り強く、芯を強く持ち取り組むことで職員力が引き出されるのだと思います。

今後も職員一人一人の積み重ねによって職員が輝けるいい施設になると信じて取り組んでいきます。

結びに、45周年記念誌を発行できましたことに心より感謝申し上げますとともに50周年に向けて、鋭意努力してまいります。



第二偕楽園ホーム
副施設長、品質管理室長
後藤智子

地域密着型特別養護老人ホーム第二偕楽園ホームは平成30年に開設しました。

第二偕楽園ホームは、年を取り、不自由になった体を動かすことすら困難になったときでも、笑顔で、普通に当たり前に自由に気ままに暮らしていただけるよう、必要な時にサポートできる気の利いた施設でありたいと考えます。

そのためには、多様な価値観、考え方、ものの見方が必要となり、自らが考え行動できる職員を育成することが重要です。

職員が研修などの学びの場を活用し、施設の方針を理解して一丸となることで「配慮ができる気の利いた施設」が実現できると考えます。

そして「困ったら第二偕楽園ホーム」と地域の方々から思ってもらえる、地域にとって欠かすことのない存在を目指したいと思っています。

引き続き、第二偕楽園ホームをよろしく申し上げます。



看護小規模多機能型
居宅介護事業所所長
高橋毅

私事ではございますが、平成12年10月に偕楽園ホームにて社会福祉従事者としてのキャリアをスタートさせ、その後令和2年11月に現職を拝命いたしました。

この度、社会福祉法人一誠会の創立45周年を受け、私自身大きな喜びとともに、ここまで自分を成長させていただいたことに対する感謝の念を禁じえません。

さて、平成30年に第二偕楽園ホームにてスタートした看護小規模多機能型居宅介護事業は、「訪問」「通い」「泊まり」「訪問看護」という介護・看護サービスの一体的な提供を軸としたサービスです。

大切なことは「退院直後や終末期など、症状が不安定な時期でも在宅生活を続けることができるための支援」、そして「重度の要介護者を支える家族の身近な相談相手」として機能することです。

今後も職員一同、不断の努力を重ねていく所存でございますので、今後ともよろしくお願いいたします。



第二偕楽園ホーム
訪問看護ステーション所長
山口登大
たかひろ

私たちの第二偕楽園ホーム訪問看護ステーションは、ご利用者のご自宅を訪問させていただきサービスを提供する在宅サービスで、隣の加住町に平成30年に開設され、5年が経ちました。

私は3年前に入職しましたが現在、訪問看護師は30〜50代と幅広い年代の方が在籍され、子育て世代の看護師が多いので、みんなで協力し合って、ワークライフバランスを大切にしたい働き方を大切にしていきます。

第二偕楽園ホームの訪問看護ステーションは、宮下町・加住町など一誠会の圏域を中心に展開しており、一体的に運営している看護小規模多機能型居宅介護とも連携を取りながら、より多くのご利用者に在宅サービスをお届けしております。

45周年を迎え、これからも看護職員を大切に、一誠会の地域包括ケアシステムの要として、地域の皆さまへ貢献させていただければと思います。



企業主導型保育所
かいらくえん園長
松田裕美子

企業主導型保育所はいらくえんは、平成30年10月に事業を開始し、5年が経ちました。

企業主導型保育所は、平成28年に政府（内閣府）が推奨する働き方改革を実現するために、仕事と子育ての両立支援として働き方に応じて多様な柔軟な保育を提供し、従業員の皆様を優先的に、また、地域住民の方にもご利用いただける保育所です。

現在は定員11名の0歳〜2歳のお子様をお預かりし、ひとり一人の育ちに丁寧に関わり、子どもたちが安心して自己表現が出来る、自己肯定感を持ち主体的に行動できる子どもたちの心を育む保育を実施しています。また、保護者の皆さまが安心して仕事ができるようにと日々願いながら支援をしております。

これからも保護者の皆さまや地域の方々、そして第二偕楽園ホームのご利用者の方々とともに子どもたちの成長を見守っていききたいと思っております。



八王子市高齢者あんしん相談センター大和田センター長
芦田弥生

昨年8月に一誠会に入職し「八王子市高齢者あんしん相談センター大和田」のセンター長に就任してから、8ヶ月が経ちました。

新人センター長をセンターのメンバー全員が温かく支えてくれたことに、とても感謝しています。

センターに入職した際、メンバーに向けて「互いを尊重して、チームワークを大切に仕事をしていきたい」と抱負を述べました。

私たちセンター職員は、地域の高齢者の方々が安心して生活が出来るように、高齢者を取り巻くあらゆる機関と連携し、センターの各専門性を結集してこそ、適切な支援につながっています。これは、相談支援業務に限ったことではなく、福祉の仕事に共通して言えることです。

45周年を迎えた一誠会は、現在も事業を拡げ職員も拡充しています。今後もさらに専門性を高めながら「一誠会チーム」は、これからも結束を固め、八王子市の福祉の充実に寄与してまいります。

看取り介護の必要性

高齢社会の次に来るものが多死社会と
言われています。偕楽園ホームが開設さ
れた昭和55年の年間死亡者数は約72万人
でしたが、令和4年には156万人と倍
以上になり、さらに増え続けると予測さ
れています。

こうした中、高齢者の尊厳を保ち、「そ
の人らしく」在りながら自然な最期を迎
えていただける「看取り介護」は、ご本
人やご家族が安心して今の生活を送り続
けるためにも必要不可欠なものとなっ
ていきます。

したがって特別養護老人ホームには生
活の場としてだけではなく、ご利用者の
ファイナルステージである「看取り」の
場としての役割が益々求められていま
す。



看取り期では、その人らしさに一
層重きを置き、職員が寄り添いな
がら穏やかに過ごして頂きます

一誠会だからできる安心して
今を過ごすために

偕楽園ホームをはじめとする一誠会で
は、ご利用者に「看取り」の時期が訪れ
ているかの判断から最期の時を迎えた際
の診断まで一誠会の理事長でもある鈴木
康之医師が関わることが大きな特色の一
つです。

看取りの時期とはご利用者自身の食事
摂取量などが低下し、心身の回復が望め
なくなる繊細なことのため、より細やか
なご利用者の状態の把握と迅速な対応が
必要となります。

今後も、ご利用者に安心して今を過ご
していただくためにも偕楽園ホームでは
看取り介護のより一層の充実に努めてま
いります。



看取りを行うにあたり医師の説明
をするほか適宜必要な診察を
するので安心して過ごせます



毎年恒例のお花見会食です。

この八重桜を来年、再来年...といつまでも楽しんでいただけるように支えてまいります

事業開始から17年

平成19年1月1日に八王子市宮下町に偕楽園ホーム居宅介護
支援事業所を開設し、令和4年4月には同市北野町に「偕楽園
ホーム居宅介護支援事業所北野」(以下「北野事業所」)を開設し
ました。地域で生活する在宅の方々の支援を行うべくサービス
向上の拡充に努めています。

専門性と親しみやすさを
兼ね備えたケアマネジャー

親切で丁寧な対応と相談のしやすさに加え、専門性を発揮し
たサービスの連携や調整などがケアマネジャーの強みです。
担当させていただく方とはもちろん、地域の医療・福祉・介
護事業所との信頼関係も築きながら、チームケアとして必要な
介護サービスが支援できるようマネジメントを行っています。
で、これからもよろしくお願いたします。



北野事業所の主任ケアマネジャーとして自己
研鑽に努めています



宮下町の事業所には3名のケアマネジャーが
おりますので、お困りのことがあれば気軽に
ご相談ください

事業所の強みを活かす

定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、平成30年10月に
事業を開始した、重度の介護を要する方など、その方に応
じたケアが提供することができるように24時間365日支
援が可能な医療体制も備えた事業です。

その中で一誠会の一歩の強みは、重度の身体介護にも応
じられるスキルを持った特別養護老人ホーム出身の介護福
祉士が勤めていることです。これにより、在宅で暮らすご
利用者が慣れ親しんだ地域で暮らし続けることができるよ
うにサポートしていきます。

偕楽園ホームを拠点として、昨年4月に開設した北野町
に続いて令和6年3月には小比企町にサテライト事業所を
開始しサービス提供エリアを拡げてまいります。
引き続き、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業をよ
ろしくお願いたします。



偕楽園ホームの看板を背負い市内を走ります。
地域の方から「よく見かけます」と声を掛け
られると励みになります



特定事業者加算の算定要件の一つに、ご利用
者に関する情報またはサービス提供に当たっ
ての留意事項の伝達などを目的とした会議を
毎月開催しています

一誠会初の通所サービス

平成23年4月1日に開設したデイサービスセンター初音の杜は、当時の通所介護事業と現在も続く認知症対応型通所介護事業、要支援認定者がご利用いただける介護予防通所介護事業で開始いたしました。当時は、数人だったご利用者の人数も、一日の定員が満員のときもあるなど地域の方々に利用してもらえるようになりました。間もなく丸13年を迎えることとなりますが、引き続き地域の拠点としてサービス提供してまいります。



認知症や介護予防にいい効果を及ぼすように考えた運動やレクリエーションなどのプログラムメニューを取り揃えています

在宅で暮らしつつづけることを支援する

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、いわゆる超高齢化社会を迎えます。地域包括ケアシステムにおけるデイサービスとしての役割である、地域の方々が高齢になって介護が必要になっても、住み慣れたご自宅で自分らしい暮らしが続けられることを念頭に、その方々の方のニーズにお応えできるデイサービスであるように、これからも努めていきたいと考えています。



宮下サポートチームの皆さまと写真撮影。地元宮下町会の方々からは、日頃よりご協力をいただいています

認知症の方が安心してできるを実践

デイサービスセンター初音の杜と同じく、グループホーム初音の杜は平成23年4月1日に開設し、1ユニット9名定員18名の施設として事業開始となりました。

グループホームは認知症対応型共同生活介護として、認知症の方が共同生活の場として自身の能力を活用しながら自立した生活が営めるよう支援するもので、初音の杜では看取りの方まで対応させていただいています。

その人らしく生活することを支援する

認知症の方を支援することで大切なことは、お一人おひとりの「有する能力」やそれまでの人生、興味・関心事にも留意をしながらともに日常生活を送っていただくことです。また、ご本人やご家族のご意向によっては、最期を迎えるその時まで、その人がその人らしく、その人生を全うできる支援が行えるよう、これまでも、そしてこれからも職員資質に磨きをかけて努めていきたいと考えています。



食事作りは認知症予防に効果があるとされ、初音の杜のご利用者もできることを少しでもしていただいています



初音の杜はご利用者に安心した生活が提供できるようにと、安全な建物におくられる優良防火対象物認定証を取得しています



生活の中で家事などの役割をもつことで、自尊心を維持し活気のある生活を送れるように支援していきます



初音の杜で楽しく笑顔で過ごしていただき、在宅で暮らす支えになるよう努めてまいります

当たり前前のごができる

地域密着型特別養護老人ホームの入る第二偕楽園ホームは、一つの建物の中に様々な形態の高齢者施設や保育園など、多様な事業所が集まる複合施設となっております。

この特徴を生かし、他の事業施設のご利用者同士が互いにふれあう機会を持つことで、刺激をもらえるなどの効果が期待できます。



昭和記念公園に外出時の記念撮影です。当たり前のように外出ができることの支援を心掛けています

また、ご家族が会社帰りに立ち寄り、お母様の笑顔をみてほっとしたり、実家のペットを連れてきて、ペットと戯れる姿が見られるなど生活に彩りが持てます。

コロナ禍でも手洗いとマスクなど感染対策を施した上で面会制限は行わず、いつでも、当たり前のごができる施設でいられたことも、当施設の誇りです。



3人集まれば、施設の愛犬口コちゃんを囲んで井戸端会議。笑顔が溢れます

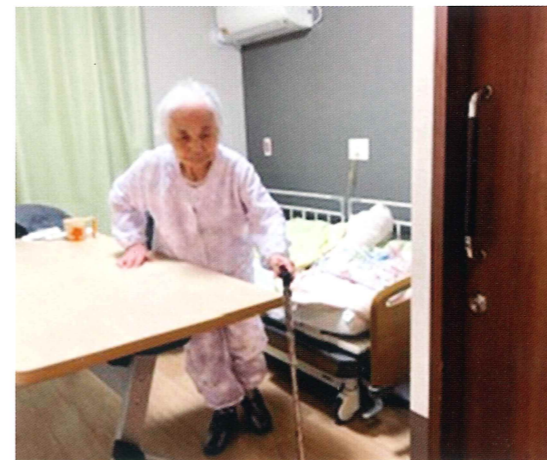
短期入所生活介護

自宅での生活の延長として支援する

短期入所生活介護では、困ったときにいつでも力になりたいと考えています。平日や土日でも、外出することが大変な階段や段差のあるご自宅にもお迎えに上がります。

また、お部屋はトイレ付きの個室をご用意しており、トイレが頻回であったり、昼夜逆転や不穏など様々な方にもご利用いただきました。

ご本人のしたいことを尊重したいとの思いから、たばこも飲酒も対応可能です。自宅での生活の延長として支援します。ぜひお気軽にご利用ください。



ご本人の状態に合わせ、転倒防止用のテーブルを置くなどして、いつでも自分の思いのまま歩くことのできる環境を整えます

開設から5年

第二偕楽園ホーム看護小規模多機能型居宅介護事業所（以下、看多機）、訪問看護ステーション（以下、訪看）は平成30年9月13日の開設からはや5年半が経過しました。

地域の方々に知っていただくことで必要とされる事業所へ

開設当初は、地域における認知度も高くないためか、利用者数も増えず、赤字経営が続いておりましたが、昨年度ようやく看多機、訪看の両事業所で共にプラス収支を達成することができました。今年度も事業計画上の目標を



多種多様な行事の提供も、好評の要因となっております



サ高住ご利用者に対する訪問看護師のリハビリ。スケールメリットが垣間見える一コマです

大きく上回る当期活動増減差額を達成（令和6年2月18日現在）しています。これもひとえに、地域の皆さまに事業を知っていただくためのPRに努めてきた結果だと思えます。

経営指標の一つである当期活動増減差額や稼働率は、経営の安定性のみならず「事業がいかにエンドユーザーから必要とされているか」を如実に示す指標でもあると考えています。

今後、地域の方々やご利用者の皆さまから必要とされる事業であり続けるよう、研鑽を重ねていきたいと思っております。

サービス付き高齢者向け住宅

自分らしく生活できるを支える

サービス付き向け高齢者向け住宅では、アパートやマンションと同様に独立した完全個室の生活スペースで、共用スペースには台所も設けており自炊もできます。

また、日中は生活相談員が常駐し、安否確認や生活支援サービスを受けることができ、必要に応じて介護や医療、食事サービスも提供されます。

さらに、併設している保育所の園児との交流の場もあったりと、ご入居者が楽しく安心して、自分らしく生活できる環境でお待ちしています。



サービス付き高齢者向け住宅のご入居者からのご相談をきく主任生活相談員

「子ども主体」の保育を通じて

企業主導型保育所かいらくえんは、第二階楽園ホームに併設しています。第二階楽園ホームには、特別養護老人ホームをはじめ、サービスタビ付き高齢者向け住宅など高齢者をご利用している幼老複合施設です。こうした幼老複合施設の利点を活かし、高齢者の方々と交流を通して子ども1人ひとりの思いに寄り添いながら、異年齢で「子ども主体」の保育サービスを提供しています。



毎週、併設する第二階楽園ホームのご利用者と一緒に「音楽遊び」を楽しんでいます。楽器遊びやダンスなど、園児もご利用者もとても嬉しそうです

の中で様々な体験をし、集団生活の簡単なルールや自己表現の方法を知り、友達と一緒に過ごす楽しさを感じてほしいと願っています。

地域の中の保育園を目指して

相手の思いに寄り添う感情が芽生えてくるこの時期に、高齢者施設のご利用者や、地域の方々と交流の場を持つことで、「子どもたちの心を育む保育」を保育者も一緒に楽しみながら目指しています。



保育園の前に小さな畑があり、いちごや野菜を栽培し、収穫した野菜は給食でみんなで美味しく食べています



職員も子どもたちとの会話を楽しみながら一緒に過ごしています



人工芝の園庭で簡単なルールのある遊びをみんな一緒に楽しんでいます

コロナ禍でむかえた開設

八王子市における「地域包括ケアシステム」の拠点となるよう、事業を拡大してきた一誠会が、令和2年5月に、八王子市からの委託を受け、大和田圏域に「八王子市高齢者あんしん相談センター大和田（八王子市地域包括支援センター）」を開設しました。

当時、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた時期でもあり、対面での交流が少ない厳しい時期の船出ではありましたが、地域の方々にご協力いただきながら、つながりを作っていました。

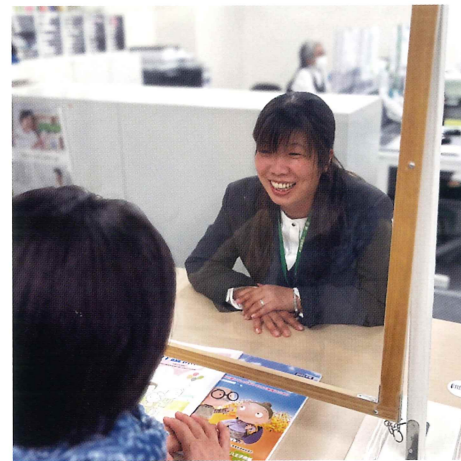
地域を支える中心に

「私たちは、ご利用者が個人の意思と可能性が尊重され、自立したその人らしい生活を、地域社会で営むことができるよう、援助します」という一誠会の品質方針の下、今後も大和田の地に根づき、地域にお住まいの高齢者の方々や、そのご家族に寄り添い、適切なサービスと情報を提供する身近な存在となるよう努めてまいります。

地域の方と顔が見える関係性に

八王子市高齢者あんしん相談センター大和田では、地域の方に対する介護知識の普及と地域の方との交流を目的として、認知症サポーター養成講座や見守りネットワークの構築、介護予防教室などの活動を行っています。

また、「地域包括支援センター」のPRの一環として、広報誌『大和田だより』の発行（隔月偶数月）やSNS（ソーシャルネットワークサービスの一つであるX（旧Twitter））での発信を行っています。地域の方と顔の見える関係性になるように引き続き取り組んでいきますので、よろしく願いいたします。



困りごとは経験豊富な相談員がお話を伺います



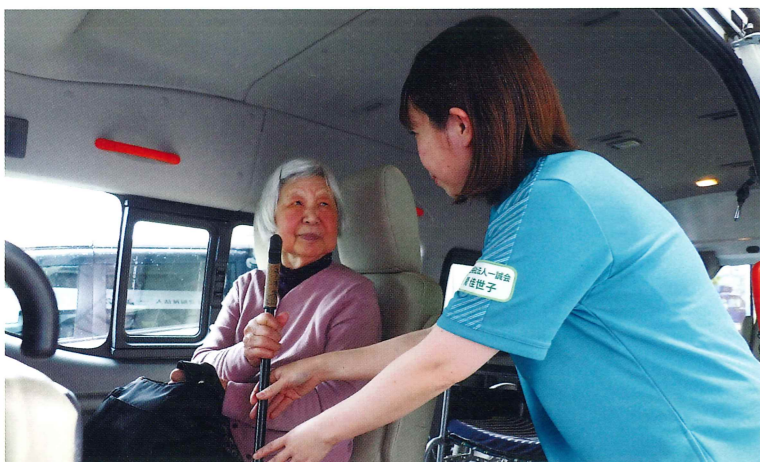
ベテランの主任ケアマネジャー、社会福祉士、保健師がおまちしています



地域包括支援センターの取組みの一つで介護予防教室「ぼれぼれ体操」には多くの住民の方々にお越しいただいています



八王子市高齢者在宅サービスセンター中野は、定員30名のデイサービスセンターとして営業します



職員は看護小規模多機能型居宅介護やデイサービスセンター初音の杜から異動し一誠会の方針を継承しサービス提供します



管理者の遠藤圭子はこれまでのキャリアを活かし取り組む次第です

令和6年4月より「八王子市高齢者在宅サービスセンター中野」を運営開始

八王子市高齢者在宅サービスセンター中野は、令和5年12月に八王子市より指定管理による受託が決定しました。高齢者在宅サービスセンターは、要支援、要介護の認定を受けた方を対象とする、介護保険制度に基づく通所介護サービス、および日常生活支援総合事業を提供する事業所です。

また、高齢者集合住宅（シルバーピア）

の生活援助員派遣業務も併設しています。一誠会では、初音の杜で通所サービスを運営してきました。一誠会で培ったサービス提供のノウハウをもとに、地域との関係性を作りながら、地域の高齢者の方々が住み慣れた地域で在宅生活が継続できるように、サービス提供に取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

管理者よりあいさつ

令和6年4月より八王子市高齢者在宅サービスセンター中野の管理者を拝命いたしました遠藤圭子と申します。平成30年に社会福祉法人一誠会に入職し、看護小規模多機能型居宅介護事業所にて課長職を務めてまいりました。通所介護事業は初めての経験となりますが、地域に密着した福祉活動を展開できる事業所を目指し、「利用者個々が安心して暮らすことのできる仕組みの構築などに、チーム一丸となって取り組む所存でございます。

令和5年4月より総合事業始めています

総合事業とは

介護予防・日常生活支援総合事業は、市区町村で行う地域支援事業の1つとして、地域の実情に応じ、地域住民などが参画し、多様な事業主体によるサービスを充実することで、要支援者などの方に対する効果的かつ効率的な支援を目指すものです。

通所型サービスC

一誠会で始めた「リハビリテーション専門職による短期集中の支援プログラム（通所型サービスC）」。八王子市では「ハッピーチャレンジプログラム（通称：ハチプロ）」を愛称として、要支援と認定された方に理学療法士などのリハビリテーション専門職などが週1回、「ご利用者の日常生活をチェックしながら面談を行い、次の1週間に向けた暮らし方のアドバイスや運動指導を行うものです。



市内の高齢者の方々の介護予防と自立した日常生活を支援します



専門職が相談にのりアドバイスで生活改善をはかります



一誠会では、多様なリハビリテーション機器を揃えていて、通所型サービスCを終了した方などニーズに合わせた運動をしていただけます

暮らしを支える

地域にお住まいの方々に対し、一誠会の機能を活かした様々な活動を通じ、顔の見える関係づくりにもつながっています。



地域交流会

家庭で介護している方や、介護や福祉に興味関心のある地域の方々に向け、月1回、参加費無料で、介護や福祉などの講座を開催しています



配食サービス

お一人暮らしの方や高齢者のみの世帯の方々に、月曜日から土曜日までお正月も安否確認を兼ねて食事をお届けしています



介護予防教室(楽しくサロン)

理学療法士、ボランティアを中心に介護予防の体操やリラクゼーションなどを設けて地域の方々が交流する場になっています

地域住民の声

社会福祉法人一誠会 設立45周年おめでとうございます。

一誠会さんは今でこそ身近で親しみ易い施設、という認識ですが、きっかけは水野さん(常務理事)がある日ランチに来てくれて、その後施設の他の職員さんとも顔なじみになり、次第に親しみやすい施設、法人に変わっていききました。

やはり同じ地域の中でも、接点が無いと何も知らないままに終わっちゃいますよね。今後も地域に密着した社会福祉法人としてさらなるご発展を願っております。



江戸っ子寿司 大将 関沢 雄一様
せきざわ ゆういち

社会福祉法人一誠会 さんは地域における防災拠点としてとても大切な存在です。火災の発生時に活用する消火栓がある他に、ともに消火訓練を行ったり、職員の方が消防団に入団していただくなど積極的に活動されており、職員の皆さまの防災意識の高さに加え、災害時における共助の実現に向け貢献いただいています。

これからも消防団は、一誠会さんとともに地域の方々が安心して暮らすことのできる、より良い地域作りを目指していきたいと考えています。



八王子市消防団 第五分団分団長 新海 龍保様
しんかい たつやす

この10年ほどで一誠会さんはずごく親しみ易くなりましたね。それはすごく感じます。一番のきっかけはお祭りですよ。借楽園ホームさんが色々協力をしてくれて、設営から最後の撤収まで手伝ってくれて、本当に助かっています。

こうしたつながりで一誠会と地域の方との相互理解がさらに深まり、益々良い関係なっけていければうれしい限りです。ちなみに、お祭り以外にも町会の行事って色々あるんですが、全部参加してくれらるくらいの勢いを期待しています(笑)



三橋食品店 大下 豊様
おおした ゆたか

地域の拠点として発信する

近隣の社会福祉法人と共催で、楽しく介護の魅力を知っていただくために、講演会や介護体験などのイベントを行っています。また、他の介護施設の介護職員などが参加できる地域福祉研修を行っています。



地域の声と一誠会の
地域公益活動
一誠会は地域公益活動に
力を入れています。

地域行事に参加

地域の活性化にもつながるように、地域の行事にも積極的に職員が参加しています。法人と地域の方々とのつながりができ、相互で支え合う関係性がつくられるようになりました。



宮下町盆踊り

準備から職員が参加し、会場の設営を手伝ったり、屋台を出したりして、地域住民の方々との交流を図っています



町の清掃デー

地域行事の一つで、ご利用者と一緒にゴミを拾いながら宮下町会館を目指します。町会の皆さまと交流の機会になります



加住市民センター祭り

加住地区連合会の主催で開催され、ご利用者の作品展示をするなど、町会の一員として出店しています



消防団入団

職員が地域の消防団に入団しています



元旦祭

地域行事の一つで、若松神社にお参りに伺い、新年を宮下の氏子の皆さまと共に迎える行事です



若松神社例大祭

毎月9月に行われる若松神社の例大祭の宵宮(前夜祭)では屋台の出店、本宮では職員でお神輿を担がせていただいています





- ◆ 偕楽園ホーム定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所サテライト小比企
- ◆ 偕楽園ホーム訪問介護事業所サテライト小比企
TEL.042-683-0335 FAX.042-683-0334
〒193-0934
八王子市小比企町 1130-3 ルイール宮本 201



- ◆ 八王子市高齢者在宅サービスセンター中野 定員：30人
(一般型通所介護事業所 介護予防・日常生活支援総合事業)
- ◆ 八王子市高齢者集合住宅生活援助業務(シルバーピア)
TEL.042-634-9615 FAX.042-634-9616
〒192-0042
東京都八王子市中野山王三丁目 17 番地 2 号



- ◆ 特別養護老人ホーム 偕楽園ホーム 定員：100人
(法人本部 特別養護老人ホーム)
- ◆ 偕楽園ホーム 短期入所生活介護事業所(空床型)
TEL.042-691-2830 FAX.042-691-8288
- ◆ 偕楽園ホーム 居宅介護支援事業所
TEL.042-696-5238 FAX.042-691-8288
- ◆ 偕楽園ホーム 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所
- ◆ 偕楽園ホーム 夜間対応型訪問介護事業所
- ◆ 偕楽園ホーム 訪問介護事業所
TEL.042-659-3366 FAX.042-691-8288
〒192-0005
東京都八王子市宮下町 983 番地



- ◆ デイサービスセンター初音の杜 定員：18人
(地域密着型通所介護事業所 介護予防・日常生活支援総合事業)
- ◆ デイサービスセンター初音の杜 定員：12人
(認知症対応型通所介護事業所 介護予防・日常生活支援総合事業)
- ◆ グループホーム初音の杜
(認知症対応型共同生活介護 介護予防・日常生活支援総合事業)
定員：2ユニット 18人 (1ユニット 9人)
TEL.042-691-8289 FAX.042-692-1772
〒192-0005
東京都八王子市宮下町 988 番地

- ◆ 偕楽園ホーム 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 サテライト北野
- ◆ 偕楽園ホーム 訪問介護事業所 サテライト北野
- ◆ 偕楽園ホーム 居宅介護支援事業所 北野
〒192-0906
東京都八王子市北野町 546-8 石坂ビル 203 号室
TEL.042-659-3366 FAX.042-691-8288
- ◆ 介護予防・日常生活支援総合事業
八王子市通所型 短期集中予防サービス
(ハッピーチャレンジプログラム)
TEL.042-691-2830 FAX.042-691-8288



- ◆ 八王子市高齢者あんしん相談センター大和田
(地域包括支援センター)
- ◆ 生活支援体制整備事業 ◆ 介護予防支援事業
- ◆ 認知症地域支援整備事業
〒192-0045
東京都八王子市大和田町四丁目 5 番 4 号
グロージングシティ大和田 J002 号
TEL.042-649-3280 FAX.042-649-3281



- ◆ 第二偕楽園ホーム 訪問看護ステーション
TEL.042-691-1867 FAX.042-691-1870
- ◆ 第二偕楽園ホーム サービス付き高齢者向け住宅
部屋数：12 室
TEL.042-691-1866 FAX.042-691-1870
〒192-0004 東京都八王子市加住町一丁目 18 番地

- ◆ 地域密着型特別養護老人ホーム 第二偕楽園ホーム
定員：29人
- ◆ 第二偕楽園ホーム 短期入所生活介護事業所(併設型)
定員：9人
TEL.042-691-0913 FAX.042-691-1870
- ◆ 第二偕楽園ホーム 看護小規模多機能型居宅介護事業所
登録定員：29人(通い18人、泊り9人)
TEL.042-691-1866 FAX.042-691-1870
- ◆ 企業主導型保育所 かいらくえん
定員：11人
TEL.042-691-1868 FAX.042-691-1870

編集後記

この度社会福祉法人一誠会は、設立45周年を迎えました。長きにわたり、本法人に対しまして温かいご支援とご厚情を賜り、また、本号発行にあたりまして、初宿八王子市長をはじめ、ご寄稿いただいた皆さま方に心より感謝申し上げます。

一誠会の歴史を振り返れば、誇らしいことばかりではなかったように聞きおよびますが、この10年余りの間、幅広い事業展開をはじめ、時代の変化に則した改善と改革を重ね、現在その存在を地域社会に示せているのではと自負しています。

この4月より新たに受託した八王子市高齢者在宅サービスセンター中野もスタートします。今後も一誠会は、多様化し、複雑化する地域福祉ニーズに応えるため、歩みを止めることなく成長し続けたいと思っています。



社会福祉法人一誠会
常務理事
水野敬生
みずの たかお

一誠会 web



Facebook



X (旧 Twitter)



Instagram



YouTube



社会福祉法人一誠会 45周年記念誌

発行：社会福祉法人一誠会
発行日：2024年3月25日

企画・制作：一誠会広報委員会
印刷・製本：株式会社木万屋商会